

2011年度大学博物館等協議会 実務担当者会議 議事録

日 時：平成23年6月23日（木）16：45～17：40

場 所：名古屋大学東山キャンパス 野依記念学術交流館 2F カンファレンスホール

出席校：北海道大学総合博物館、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション植物園、弘前大学白神自然環境研究所、岩手大学ミュージアム、東北大学総合学術博物館、秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館、山形大学附属博物館、東京大学総合研究博物館、東京藝術大学大学美術館、東京海洋大学海洋科学部附属水産資料館、信州自然誌科学館準備委員会、富山大学和漢医薬学総合研究所民族薬物研究センター民族薬物資料館、金沢大学資料館、静岡大学キャンパスミュージアム、名古屋大学博物館、愛知学院大学歯学部歯科資料展示室、京都大学総合博物館、大阪大学総合学術博物館、広島大学総合博物館、香川大学博物館、愛媛大学ミュージアム、九州大学総合研究博物館、熊本大学五高記念館、宮崎大学農学部附属農業博物館、鹿児島大学総合研究博物館、国立科学博物館、国立民族学博物館文化資源研究センター

議事は、名古屋大学博物館の大路樹生を議長として進められた。

議題1. 博物館法改正に伴う学芸員資格課程の変更への対応について

まず、名大名古屋大学の対応が紹介された。文学部に加えて、教育学部と博物館が授業を担当し、基本的に大学内で対応できそうな状況である。次に九州大学の状況を紹介された。文学部、理学部、農学部、教育学部で関連科目が開講されている。北海道大学の事例報告では、これまで文学部が主に学芸員資格関連科目を開講してきたが、理系の学生も受講できるように全学の所管にすることが述べられた。次に京都大学の事例が紹介された。文学部が中心に開講しており、実習は理学部も行っている。

議題2. 大学博物館巡回展について

藝大の薩摩先生から報告が行われた。数年前からの検討課題であるが、なかなか実現が難しい状況である。しかし、その検討から議題3のように、メディアとの連携という選択肢を現在、検討中である。

議題3. 各館の活動内容の集約とメディアへの情報発信について

藝大の薩摩先生から報告があった。メディアは大学博物館などで行われている活動

に興味があるが、なかなか情報へのアクセスが限られている。企画段階からメディアに入ってもらい、マスコミの文化事業部との協力が必要であろう。そのためには、大学側からメディアにアプローチし、連絡を密にするという選択肢もありえる。

議題 4. 大震災で被災した博物館のレスキューと博物館の危機対応

名古屋大学・大路先生から、学術会議および全国博物館長会議での議論内容がまず紹介された。必要な救出を素早く行うため、および救援に必要な機関は素早く状況を知らせる手段として、ポータルサイトが必要ではないか、という提案がされた。その目的として現在 saveMLAK という救援情報サイトが存在しており、これに登録して活用するだけでも意味があるだろう。

東北大学・佐々木先生からは、被災した博物館を救済する時に、展示物の現状（内容や配置）に関する情報が必要であったことが指摘された。どこになにが収蔵・あるいは展示されているかという情報が集約されていれば有効であろう。

九州大学・三島先生からは、震災時に水族館のネットワークが有効に機能したことが述べられ、博物館のあいだのネットワークの重要性が指摘された。